

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 ㉔ 第	号	氏名	宮崎雅樹
論文審査担当者	主査	内科学	別役智子	
衛生学公衆衛生学	武林	亨	外科学	浅村尚生
	内科学	伊藤	裕	
学力確認担当者：岡野	栄之		審査委員長：武林	亨
			試問日：平成27年	5月11日
(論文審査の要旨)				
論文題名：Analysis of comorbid factors that increase the COPD assessment test scores (慢性閉塞性肺疾患アセスメントテストスコアの上昇に寄与する併存症に関する解析)				
<p>慢性閉塞性肺疾患 (Chronic obstructive pulmonary disease: COPD) は中高年喫煙者に多い閉塞性換気障害を特徴とする肺の疾患である。しかし、全身の慢性炎症という病態から様々な併存症を伴うことが問題とされている。COPDアセスメントテスト (COPD assessment test: CAT) は近年開発されたCOPD患者の健康状態評価のための質問票である。本研究ではどのようなCOPD併存症が、CATスコアの上昇に影響を及ぼすかを検討した。まず、日本語に翻訳された質問票CATが従来、呼吸器疾患QOL評価のスタンダードとされる質問票St. George's Respiratory Questionnaire (SGRQ) や、内科疾患一般に用いる健康評価表であるMOS Short-Form 36-Item Health Survey (SF-36) の各スコアとも比較的良好な相関を示すことを示した。また、胃食道逆流や不安及び抑うつはCATスコアの上昇につながることを明らかにした。</p> <p>審査ではまず併存症の診断について質問された。血液検査や疾患特異的な質問票を用いて診断を行い、さらに診療録をもとに診断の精度を高めることとしたが、これはこれまでの研究報告と比較しても十分妥当であると考えられることが回答された。なお今回検討の対象とした併存症についてはこれまでの研究報告からCOPDとの関連が示唆される疾患を中心としながらも、可能な限り網羅的に調査を行ったと回答された。</p> <p>次にそれぞれの併存症とCOPDの因果関係について問われた。胃食道逆流について文献上はCOPDに特徴的な肺過膨張に起因する腹腔内圧の上昇等が影響する可能性があると回答された。一方これまでの欧米を中心とする研究においては胃食道逆流と咳嗽や喀痰の関連が示唆される報告が多いが、本研究においては呼吸困難感に関してより強い相関を示したことについては欧米人と日本人の体格が関連している可能性が示唆された。また不整脈との関連については肺性心の要素に加えβ刺激薬を始めとした治療薬剤による副作用、COPDと不整脈の共通のリスクである喫煙の影響が考えられると回答された。</p> <p>次にCOPD群のCATスコアの実数の意義について質問された。CATスコアは新規に開発された質問票であるため、現在もそのスコアと実臨床における健康状態評価の関係については引き続き検証されているものであり、本研究の結果は本邦におけるCOPDの併存症とCATの関係に関する最初の報告であると回答された。なお本研究においてはCOPD群の平均年齢が高いが、これは本邦が全世界的に先立ち際立った高齢化社会を迎えている現状を踏まえると本研究の結果は諸外国に対しても参考になるものと考えられる。</p> <p>さらに、同様な検討をSF-36に関するものについても行っていくことが今後の研究課題と回答された。経年的な観察結果を後ろ向きに解析を行うことで各併存症に対する治療介入とCATスコアの関連についても検討を行っていく旨が回答された。</p> <p>以上、本研究には今後さらに検討すべき課題を残しているものの、COPD併存症がCATスコア上昇に寄与する可能性を示し、CATを用いることが併存症を含めたCOPD治療の向上につながる可能性を示した点で有意義な研究であると評価された。</p>				